

子育てサロン@行田市 結果速報

1 調査目的

子育て中の女性を対象に、就業経験や意欲、就労に向けて必要な支援などを把握することにより、女性が子育てや家庭とのバランスをとりながら就労し続けるために必要な施策の検討を行います。

2 調査対象・方法等

調査対象	調査方法	調査場所・日時
子育て中の女性 (きっすプラザあおいを利用した保護者)	(1) アンケート用紙への記入 (2) (1) への記入後、ヒアリング項目に基づき聞き取り	きっすプラザあおい 平成27年8月7日(金) 11:00~17:00

3 調査人数

24名

4 結果概要

(1) アンケート調査

就労状況

- ・「出産を機に退職した」が5割を超えて最も多く、就労している方は約3割となっている。

産休・育休

- ・実際の取得期間は「1年間」という方が最も多いが、理想の取得期間は、「1年間」と「2年間」が同数でそれぞれ約3割となっている。

現在就業していない理由

- ・「子育てと両立できる適当な仕事がない」が7割を超えて最も多い。

就労希望

- ・現在就労していない人の就労希望としては、ほとんどの方が「パート・アルバイト等での就労」を希望している。

結婚や出産を機に退職した理由

- ・「子育てに集中できる」が3割を超えて最も多い。

(2) ヒアリング調査

① 産休・育休を取得する際の不安や悩み

- ・現在育休中、あるいは過去に育児休業取得経験のある方の多くが、育休終了後に以前と同様の職務内容、勤務時間で職場へ復帰できるか、同僚の理解を得られるか、周りに迷惑をかけるのではないか、という点を不安として上げている。
- ・育児休業取得経験者の体験談としては、職場や職種によって差が見られる。資格を要する専門職の方が、他に較べて比較的復職がしやすい傾向にある一方、シフト勤務を要する職場は復職しづらい。ただし、今回の対象者については、復職のしやすい環境にあっても、子どもの状況や関係性を踏まえて、正規職員からアルバイト・パートへ切り替えた例が見られた。
- ・また、そもそも育児休業制度がなかったという声、少人数職場で子育てをしながら働き続けることの難しさへの指摘もあった。

② 子育てをしながら仕事を探すことや働くことに関する心配なこと

- ・保育園へ入園できるか、病児・病後児保育などが使いづらい、自分の収入と保育料とのバランスなど、保育サービスへの不安があげられた。
- ・子どもの体調不良時などに仕事を休んで対応できるかなど、職場の理解や、職場へ迷惑をかけることについての不安があげられた。基本的には、子どもを中心とした生活をしたいという意識が見られる。
- ・一方、子どもがある程度大きくなったらパートやアルバイトとして就労し、その後は正規職員として就労したいという声もあった。

③ 子育てをしながら仕事を探すことや働くことに関して、行政や企業に期待すること

- ・主に、下記の具体的な要望があげられた。
- * 求職中でも保育所に入れるようにしてほしい。
- * リフレッシュ目的や検診時など、ちょっとした時の託児サービス、気軽に子どもを預けられる場所がほしい。
- * 世間一般の目、職場の理解、夫の理解など。子どもがいること、子どもがいることで不利にならない社会の構築。
- * 大企業では託児所を設置するなど進んでいる面も、あるが、中小企業の働きながらの子育てへの理解はまだまだである。
- * 経営者や上司だけでなく、同僚の理解も必要。
- * 児童センターや子育てサロンの充実。あおいがあって助かった。あおいのような施設がもっと増えてほしい。子どもが参加できる交流の場が少ない。
- * 女性の就労やキャリアアップを支援するための情報や、子育て支援施設に関する情報などの PR、提供を充実させてほしい。
- * 不妊治療の補助を充実させてほしい。